（頭圍）、これは皆さんも御存じの通り頭の大い子供は時々腦水腫と云ふ病氣で大いのもあり、又頭の構造が小くあつて、痴呆と云ふやうな子供が多くあるものである、頭の圍は一見してこれ位な子供ならばと云ふ區別が付くものであります、普通は初生兒の頭圍は凡そ三十三乃至三十五「センチメートル」、七ヶ月には四四「センチメートル」、それから一年と二年の間は四七、五、七八歳になれば四九、五から五三「センチメートル」位に增して來る、二歳の子供と七歳位になつた子供との差は著しくありませぬが、四五歳の子供を見ても此中間より大いとか、小いとか云ふ事を見ればそれは異狀のあるものと認めて宜いだらうと思ふ、」

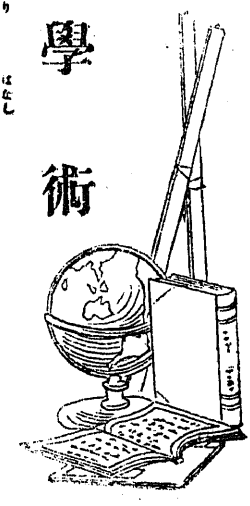
（つゞく）

學術

百合の話

佐藤禮介

吾が國の名花の一――吾が國の人は櫻花を以て國粹を代表せる名花なりとして昔より詩に吟じ歌に詠じて居るが、是は國内のみにて國人が觀て賞讃するところのものである。然るに維新以後外國との交通が盛になつてからして、外國人が觀て日本の名花なりと稱するものがある、即ち吾が國の百合と菊である、歐米諸國にも百合や菊はあるけれども、吾が國のゝ樣に壯大美麗なるものはな



い。

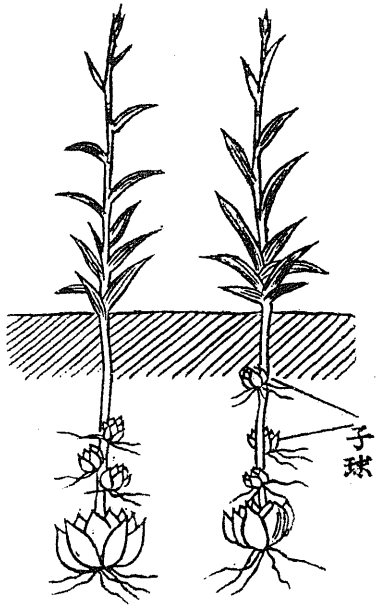
百合花輸出の由來――百合の花の歐羅巴に傳はつたのは、シーザル帝の亞細亞土耳其に於て發見したのに始る。又吾が國の百合の海外に傳はりしは、蘭人シーボルト氏が長崎より歐洲に持ち歸りたるに始まつてをる、併し是は只珍品として傳つたので眞に多量に輸出したのは、更に後のことである。明治六年澳太利國の大博覽會の際に、其の園藝部に數種の百合を出品せしより遽に輸出の途開け遂に今日の樣な盛況となつた現今最も多く百合を產するは埼玉千葉縣地方にして此地方より横濱を經て輸出するのである。

百合の種類と花の形――百合の種類は中々澤山あつて其の變りものを計算すれば、四五十種もあるが其の重なるものを擧ぐれば、卷丹、山百合。平戸。天蓋。竹島。鐵砲。鹿の子。等などである。今此等の中の最普通なる卷丹についてお話をしよう。

卷丹の莖は高さ二三尺になつて花を開きます、花の數は年を經るに從て增すものである、卽ち茲年一つの花が咲いたところの百合を良く培養すれば、翌年には二花其の翌年には三花と順次に或る定限までは數を增加するものである、花は紅色で六つの花瓣の樣なもの（花蓋）が列んで居る、而して其れが皆そり反つて居るから恰も蝶でられた小さな章魚が足を縮めた樣である。其の中には雄蕊が六本ある是は細い糸の先に小さな囊（葯）が付いて居るもので、其の囊の中から赤色の粉が出る。雌蕊は一本丈けで雄蕊に取り圍まれて居るが、中々に長く太いから、一寸見ても直に目に付

きます。雌蕊の先にある球からは何時でも粘る汁を出して居る。蝶が來て他の百合から赤い粉を持て來て此の雌蕊の頭に付ければ決して取れぬ。そうすれば種子が實るのである。

百合の殖え方――百合の殖え方は樣々であつて隨分面白いものである。



（第一圖）

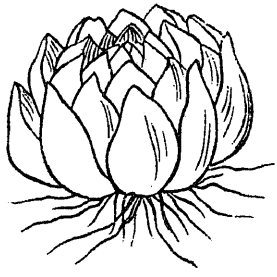
(一)子珠で殖える。（第一圖）秋に百合を掘る時に見れば地の中の根の樣な所に、百合の子珠が幾つか附いて居る、子珠と根と放さぬ樣にして、是に肥た土を掛けて置けば子珠が皆大きな百合の珠となり、三年目位で花が咲きます、掘て食べられる樣になります。

(二)珠芽で殖える（第二圖）卷丹は他の百合と違つて葉の脇に、小さい零餘子の樣な黑い珠が生ず

（第二圖）

る、之を珠芽といふ是を取つて地に埋め置けば、皆一つ〳〵の百合の珠となる是は一番容易い殖え方である。

(三)鱗片で殖える（第三圖）鱗片とは百合の根（學者は是を地中の莖なりといふ）にて吾々の食べる所をいふのです。百合を速に殖さうとするときには、鱗片で殖す方が宜しい。其の仕方を申せば、九月中に百合の根から鱗片を掻き取りて二三時間も日陰にて乾かし、次に其の鱗片を耕したる畑に並べて直立せしめ、上に土を五六分程掛け、其の上に雨を防ぐ爲に雨覆を作る、而して翌春三四月頃に至れば鱗片の掻き取つた傷口の近邊に小さい百合の珠を生ずるものです。其の後に旱天には水を注ぎ雨天には雨覆をして時々肥を與ふれば百合珠が次第に大きくなります。



（第三圖）

(四)種子で殖える――九月頃に種子を取り、殼を取り除いて貯へ置き。翌年三月末頃に土に蒔き種子の隱れる丈け細かい土を掛ける、日光に烈しく當らせぬ爲に日覆をして置き、水を灌げば三週間位で芽を出します、其の後注意して肥料を與へれば三年後には大抵花を開きます、併し此の法は一般の百合を殖すには適せぬので、新に一の變種を作り出すに用ふる仕方である。

百合の効用――百合の花は誠に奇麗なものであつて、白花のものを花瓶に挿せば室内に光明を與へるかの樣に紅色のものは熱誠を現して居るかの樣に紅白の斑あるは天女の裝を凝せるかの樣に感

ずるほどである、一種香百合の如きは芳香室に滿ちて人をして恍惚たらしむるばかりである、花が衆芳を凌ぎ華麗愛すべきのみではない、百合の中には甚だ美味であつて昔から調理の要品として珍重せられたものが多い、山百合、平戸百合等は其の一例である卷丹は少しく苦味あれども食することが出來ます。

又百合の鱗片を擦り碎いて袋にて濾せば澱粉を取ることが出來る、此の澱粉は色極めて白く味佳く甚だ上味なもので、葛蕨馬鈴薯、山慈姑などの澱粉に較ぶれば優ること數等である。

百合は斯樣に花が奇麗で根珠は味良く殖え方面白く植付けること容易いものですから少しく庭園を有せらるゝ人は試に植えられたならば中々興味あることであらうと思ひます。

草むらや百合はなか〳〵花の顔

俗にいふ、うどんげ、の話

東海生

世間で俗に云ふ、うどんげの花が咲くといふ事は、どんなことであらぶか、うどんげの花がさく年は、豐年であるとか、凶年だとかいつて居る、吾々も時々そんなことを尋ねらるゝことがある、あれは眞實花のさくのであらふか、それとも、蟲などのする仕わざであらふか、といふ疑を普通の人は持つてゐる、でありますから俗にいふ、うどんげの花のことを少々お話致しませう。

うどんげの花といふのは其の實は花ではないのです、全く昆虫の内で、くさかげろうといふ、とんぼの小さなのを見た樣な虫が產みつけた卵であ